

## 「個々を尊重する社会を目指して」

ジェンダー平等は基本的人権の一つです。それは人間が性別にかかわらず、あらゆる状況や物事の中で平等な機会を与えられ、責任と権利を分かちあうということです。身体づくりが違っていても、個人の希望や能力を自由に発揮し、社会で活躍の場を作ることができるのです。

しかし今の世の中では、社会的／文化的に形成された性別（ジェンダー）によって、働き方や生き方までも決められてしまうことがあります。現在、世界各地でこうした差別をなくすために法律や制度を見直し、個々の人権を尊重するための社会を目指しています。



### ジェンダー・ギャップ指数が低い日本

2024 年に世界経済フォーラムが公表した、世界各国の男女平等の度合いを数値化したジェンダー・ギャップ指数のランキングでは、日本は 146 か国中 118 位<sup>i</sup> となりました。0 が完全不平等、1 が完全平等としたとき、「教育」は 0.993、「健康」は 0.973 と、世界トップクラスの高順位であるにも関わらず、「政治」は 0.118、「経済」は 0.568 と、未だジェンダー格差が大きいことが分かります。

その背景には、性別に対する役割分担意識が関係していると考えられます。日本には、歴史の中で培ってきた伝統や慣行があり、人々の意識にも深く根付いています。その中には、性別による格差が生まれやすいものもあり、それがジェンダー平等の実現が遅れている要因にもなっています。

例えば、令和 4 年度「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」の結果を見ると、職場においては「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」、「組織のリーダーは男性の方が向いている」が男女両方の回答で上位となる等<sup>ii</sup>、女性の社会進出には消極的な結果となっています。

### 固定観念より「自らの意思」に耳を傾けて

「女性だから／男性だから」という社会的に植え付けられた固定観念により、自分でも気が付かないうちに希望する生き方を諦めてしまったり、身近な人の行動を制限してしまったりといったことがあるかもしれません。自分らしさを発揮し、個々の知識や才能を社会のあらゆる場面で活かしていくことにより多様性が広がり、これまで見えていなかった社会課題が発見・解消されていくこともあります。男らしさや女らしさにとらわれず、ひとりの人間として自他ともに尊重することが、これからの社会を生きていく私たちの世界を豊かにする一歩となりそうです。



【出典・引用・参考文献】

i. 世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2024」

<https://jp.weforum.org/publications/global-gender-gap-report-2024/in-full/>

ii. 内閣府男女共同参画局「令和 4 年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」

[https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/seibetsu\\_r04/O2.pdf](https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/seibetsu_r04/O2.pdf)